

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート

文・杉村裕之

感謝の父子鷹は、人間が 主役のIT社会の架け橋に。

大味 優樹人 (おおみ ゆきと)

金沢工業大学大学院工学研究科
情報工学専攻
博士前期課程一年
福井県立金津高等学校出身



大味さんを「蛙の子は蛙」と呼んでは失礼になる。ただ、大手電機メーカーの子会社で職場結婚した両親と、物心ついた頃からパソコンをおもちゃ代わりに育った環境を抜きにして、今の彼はないだろう。

「小学校に入る前から、お絵かきソフトで遊んだり、意味もなくキーを叩いたりしていました。中学時代は編集ソフトを使って動画

を作るのが趣味でした」
やがて高校生になった息子に、父はパソコンをプレゼントした。その父も、「これからはパソコンの時代が来る」と親に買ってもらっていた。文化祭では、宇宙旅行をストーリーにしたクラスの出し物をスマホで撮影し、自宅で動画に編集して全校生徒の前で発表した。「体育館に響く笑いや驚きの声に

感動で熱くなりました」。

コンピュータエンターテインメントの国内最大級の展示会・東京ゲームショウへ、母親に背中を押され足を運んだことも忘れられない。最先端のVR技術や新作ゲームなど、見るもの触るもの全てに心を驚つかみにされ、このとき「ITを活用して社会に役立ちたい」との揺るぎない方向が定まった。

KITではプログラミングに力を入れ、アルバイト代わりにソフトウェア開発をインターネットで募集し、請け負った。作業を省力化するシステムなど企業からの依頼もあった。まずプロトタイプを作り、客と操作性や不具合などの検討を重ねて納品し、ビジネススキルを磨いた。何よりも、リピーター客が増えていくことが励みだった。

二人の先生にも感謝する。大学で鷹合大輔准教授、大学院で山本知仁教授の研究室に所属し、今も両方のゼミに顔を出す。修士で取

り組んだのは、内閣府の国家プロジェクト「戦略的イノベーション創造プログラム」のひとつ、スマートインフラマネジメントシステムの構築だ。具体的には、橋梁の効率的な維持管理に向け、橋の点検データに交通量や人口分布などのオープンデータを加味して解析、画面上の地図に色分けしたピンで補修優先度を示すシステムを作った。

身につけた知識で人間が輝くIT社会をと、就職先は幅広い分野をカバーする大手電機メーカーを選んだ。しかも、その会社は、かつて父母が働いた先の親会社という偶然。内定報告を受けた両親から、思わず小さな驚きの声が上がった。間もなく社会へ羽ばたく彼には、子母澤寛が勝海舟の父をモデルに描いた名作のタイトル『父子鷹』がふさわしい。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七十一
電話番号(076)2481200